

復興祈念公園ワークショップ
～復興祈念公園での取組を考えよう～
意見の概要

平成31年3月20日

実施概要

日時：平成31年2月16日（土）13:30～15:45

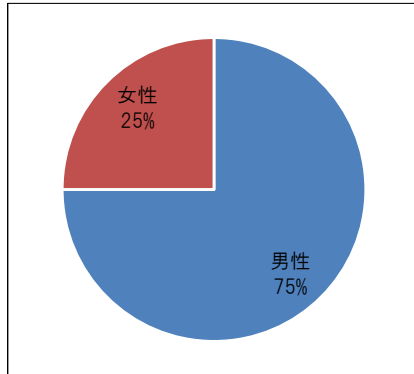
会場：福島県いわき合同庁舎 本庁舎4階大会議室

内容：①復興祈念公園の概要と前回のワークショップの結果及びいただいた意見に関連する事例
②「復興祈念公園で取り組みたいこと」を考えるグループワーク

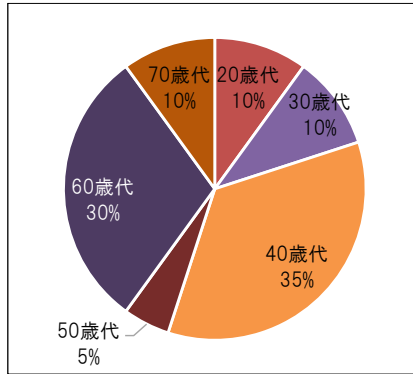
参加者：20名

参加者の構成比

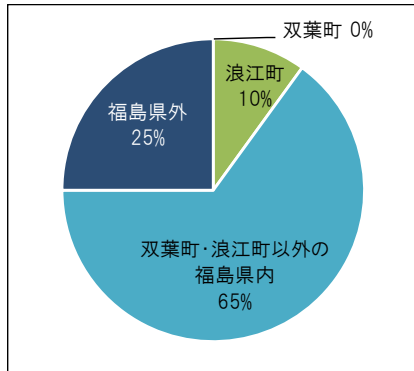
性別



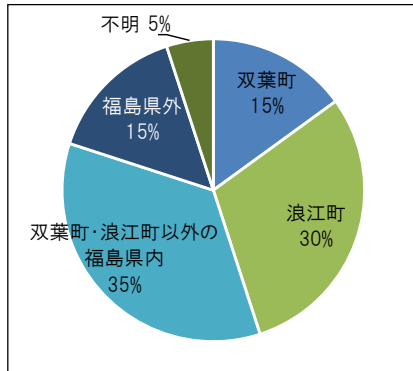
年代別



現在の住所



震災前の住所



会場の様子

実施結果

(1) 復興祈念公園の概要と前回のワークショップの結果及び いただいた意見に関連する事例

- ・復興祈念公園や福島県復興祈念公園基本計画の概要等について、福島県より説明。
- ・また、先行して整備等が進められている陸前高田津波復興祈念公園及び石巻南浜津波復興祈念公園の概要や市民協働の状況等について、国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所より説明。



福島県による説明の様子



国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所
による説明の様子

実施結果

(2) 「復興祈念公園で取り組みたいこと」を考えるグループワーク

・下記の3テーマに関係する「復興祈念公園で取り組みたいこと」について各グループで意見交換。

- テーマ①：地域振興と交流** <交流を通じて、地域に人を呼び込む> ⇒グループA、B
(取組例：花植え、植樹、農業体験、グランピング、パークゴルフ、サイクリング 等)
- テーマ②：記憶や文化の伝承** <ふるさとの記憶や文化を守り育てる> ⇒グループC
(取組例：相馬野馬追の馬とのふれあい、語り部活動、大堀相馬焼の陶芸体験、祭事の披露 等)
- テーマ③：新産業の活用** <福島イノベーション・コースト構想との連携> ⇒グループD
(取組例：ドローンレース、セグウェイを活用した園内移動 等)



グループワークの様子



発表の様子

各グループでいただいた主なご意見

テーマ①：地域振興と交流 <交流を通じて、地域に人を呼び込む>

Aグループ「誰しものが立ち寄れる場所 ～安心・安全が保証～」

- ◆安心・安全を直接的に発信するのではなく、人が集まる姿を発信することが見た人の安心・安全につながる。
- ◆夜の安心・安全のためのイルミネーションやキャンドルづくり、季節の花としてひまわりの種植えなど、市民のアイデアを自由に実現することのできる空間がほしい。
- ◆3県の復興祈念公園をつなぐ駅伝やスポーツ大会をしたい。継続的に取り組むためには、大会の誘致やPRが必要である。

Bグループ「復興の起爆剤」

- ◆復興の姿を発信できるような起爆剤となる取組が必要。
- ◆元々この地域で花づくりをしていた方に声掛けを行い、現在住まいが離れてしまった方々とともに花づくりがしたい。さらに、その活動の様子をネット配信することで広く発信したい。
- ◆騎馬武者を復興祈念公園に招集し野馬追の縮小版を開催することで、地域復興の発信がしたい。

各グループでいただいた主なご意見

テーマ②：記憶や文化の伝承 <ふるさとの記憶や文化を守り育てる>

Cグループ「"伝統<未来"というコンセプトで考えたい」

- ◆諏訪神社、茗野神社、八幡神社等で行われる祭りを各神社の宮司の協力を得ながら公園を通じて伝承したい。
- ◆震災遺構として残される請戸小学校と復興祈念公園を、ジョギングやウォーキング、犬の散歩、サイクリング等で巡ることができるようにしたい。
- ◆アーカイブ拠点施設と連携し、一方は屋内空間、他方は屋外空間を活用して、地域の伝統芸能を披露したい。

テーマ③：新産業の活用 <福島イノベーション・コースト構想との連携>

Dグループ「公園で作って使うエネルギー ～デロリアンプロジェクト～」

- ◆セグウェイやドローン、再生可能エネルギーを活用した取組によって、公園に訪れたいという魅力づくりがしたい。
- ◆地域で盛んだった漁業や、福島イノベーション・コースト構想等と連携して、福島ならではの取組にしたい。
- ◆取組の実現のためには、自分たちでできることは少ないが、民間企業等との協力によって少しずつでも前に進みたい。